



# せとうち ワーケーション



## 「人と土地と、縁が結ばれて三豊へ」 咄々々 深井志郎さん 夏子さん

「宿の名は『おやまあ』という驚きを表す禅語から。茶会のたび客人を驚かせた千利休のようにもなせたら、という思いで付けました」と二人。



豪華な夕食は和洋から選べる。肉以外はほぼ三豊市とお隣の観音寺市産のとれたて食材。



客室は、赤いふすまの和室と青い壁の洋室の2部屋。内装の改修は主に二人で行い、ドレッサーは家具職人の経験もある志郎さんが手作り。

夏子さんが営んでいた岐阜の喫茶店で人気のあった自家焙煎のコーヒー豆も販売。

今後は、地元食材でのピザ作りや草木染め、自転車ツアーなど、オリジナルの体験観光も計画中。けれど事業展開はスローペースを心掛けています。「商業施設が全く無かった地域なので、時間をかけて土地に馴染み、いずれは、近隣で育った若者や移住者が新しい事業を始める拠点になったら」と志郎さん。夫妻の夢は、三豊の未来にも結ばれた。



咄々々  
深井志郎さん 夏子さん  
岐阜県では、志郎さんは機械の設計、夏子さんは喫茶店の経営をしていた。志郎さんは今も設計の仕事が続けられて、徐々に宿の経営にシフト中。  
香川県三豊市豊中町岡本619-1  
TEL 0875-82-9191



香川に住んで

はじめたこと



海から車で10分ほどの内陸にある「咄々々」。志郎さんは「ちょうさ」と呼ばれる太鼓台の祭りなど、地元行事の担い手としても活躍中。

周囲を山で囲まれた岐阜県で生まれ育った深井さん夫妻。「いつか海の見える土地で暮らそう」と構想し、2014年ごろから実現に向け行動を開始した。  
移住希望者対象の催しに参加してみたところ、あるイベントに三豊市が参加しており、紫雲山からの海景色や父母が浜が掲載された写真集を見て好感を持った。町との相性を肌で感じようと、中国・四国地方の移住候補地を車で巡る旅をした。三豊市にも何度か訪れ、写真以

上に美しい海と穏やかな町並みに癒やされた。写真集を見たイベントで知り合った三豊市出身者の実家も訪ね、海の見えるその家がとても気に入って「ここに住めたら」と言うのと、ある日「本当に来るなら、離れを改装するよ」と連絡があった。人と土地と縁が結ばれたうれしさを感じ「行こう」と心が決まる。  
岐阜では二人とも多忙だったので、17年に移住後、しばらくその離れでのんびり過ごし英気を養った。そして19年の夏、魅力的な古民家を見つけてゲストハウス「咄々々」を開業する。宿の自慢は料理。地元産の野菜や魚を使って夏子さんが作る。「素材が新鮮だと、どんな料理も味に深みが出ます」。同年の冬にはゲストハウス内でカフェレストランの営業も始めた。

香川県情報誌  
新・さぬき野 2021 春  
No.72

香川県に関する問い合わせ

香川県広聴広報課 〒760-8570 香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019  
香川県のホームページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/>  
新・さぬき野のページ <https://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/koho/sanukino.html>  
香川県東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100  
香川県大阪事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661

多言語電子書籍でもご覧いただけます。  
無料アプリ「カタログポケット」をインストールして「新・さぬき野」で検索してください。

iOS



Android



かがやくけん、かがわけん。

## 香川県



Work 「ワーク=仕事」と「バケーション=余暇」を組み合わせた  
Vacation  
Workation 「ワーケーション」という言葉が話題になっている。  
日常とは異なる環境でリモートワークを行い、  
仕事の合間に余暇を楽しむ新しいワークスタイルだ。  
香川県なら、森、海辺、島と、自然に包まれ  
仕事も遊びもクリエイティブになる場所がある。



# ノートパソコン片手に香川へ

近年高まっていた「ワーク・ライフ・バランス」の気運が、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で加速し、新しい働き方の一つとしてワーケーションが注目されている。

仕事を携え長期休暇が取得しやすい。都会のオフィスとは異なる場所に身を置くと創造性が高まる。通常の観光以上に、滞在する地域に深く関わることで、多くの刺激を得られ、新しい発想が生まれる。以上のようなメリットがあるとされ、導入する大手企業も増えているため、今後ますます関心が集まりそうだ。

香川県は、県庁所在地である高松市を中心に、市街地と海や山の自然が隣接し、仕事も余暇も充実させられる環境がある。

例えば高松市街地の西にある五色台。台地状の五つの峰が連なり、一歩足を踏み入れれば、四季折々の森の自然の中で仕事ができる。

東には、屋島、牟礼、庵治と海沿いの町が続き、源平合戦の古戦場、庵治石の採石場などがある。イサム・ノグチはじめ世界的な作家たちが愛した、文化薫る地域を肌で感じる滞在ができ、海の幸、温泉も楽しめる。

北に広がるのは世界が憧れる瀬戸内海。島々には、それぞれの面白みがある。オリーブ、しょうゆ、そうめんなど伝統ある食文化があふれる小豆島、桃太郎の鬼ヶ島伝説が伝わる女木島など、どの島で過ごしても、人に語りたくなる知識と発見が得られるだろう。

「オフィスを離れて仕事するのは、なんとなく不安」という気持ちを解消するのが、高松市街地の通信環境とワークスペースの存在。JR高松駅や高松港にも隣接するサンポート

ト地区には、オープンイノベーションの拠点「Setouchi-i-Base」がある。5G通信環境が整ったワークスペースのほか、専用のTV会議室やテレワークブースも利用できる。

市街地の中心部にある商店街周辺にもワークスペースがあるので、そこで地元のものも貴重な経験になる。大手企業の支社が多い香川県は、出張や転勤で訪れる人々を温かく受け入れる土壌があり、気持ちの良い滞在になるだろう。

ワーケーションを試すならぜひ香川県で。



県都・高松の都市拠点  
サンポート高松



時間単位の利用もできる  
Setouchi-i-Base



五色台には、瀬戸内のパノラマが見下ろせる大型の宿泊施設がある。大浴場、オートキャンプ場を備え、全館でWi-Fiが利用可能。五色台での仕事と遊びの基点に。

高松市街地から西へ車で30分ほどの場所にある五色台。台地状に連なる五つの峰（青峰・黄峰・赤峰・白峰・黒峰）は、四国遍路の開祖・空海が伝えた真言密教における五つの知恵を表すと伝わっている。

ここでの醍醐味は自然の中で仕事ができること。合間には、キャンプ、トレッキング、バードウォッチングと、森の懐へ思いっきり飛び込もう。体ごと自然と触れ合えば仕事時間も充実し、いつもとは違うアイデアへと導かれそう。

五色台の山中には、四国霊場第81番白峯寺と第82番根香寺がある。春は白峯寺の桜、根香寺では新緑のみみじと、空海の教えと共に、植物も生き生きとした姿で歓迎してくれる。また山とその周辺では、多彩なロードがサイクリストを魅了している。脚力を試されるヒルクライムに、水平線と並走できる麓の海沿いの道など、県外からも多くのサイクリストが訪れ、感嘆の声を上げている。昔から、森との交流は人にエネルギーをくれるというから、五色台でなりたいもよりパワフルに仕事ができるだろう。



五色台の麓の海沿いにオリーブ園があり、5月末ごろからオリーブの花が咲き始める。潮風に吹かれて育ったオリーブから搾ったオイルを、農園で買うこともできる。



五色台にはいくつかの展望台があり、サイクリストが休憩する姿も。

# 五色台 森からエネルギーをもらおう



高松市内にキャンピングカーのレンタル店がいくつかある。車を借りて、五色台でオートキャンプを。

森と親しみたいなら五色台ビジターセンターへ。トレッキングのお薦めコースや、季節の花、鳥、虫との遭遇ポイントを教えてもらおう。

キャンプ場では、宿泊施設でレンタルできるテントで、手ぶらキャンプも楽しめる。



牟礼・庵治には、この土地にゆかりのあるイサム・ノグチ、流政之、ジョージ・ナカシマの個人ミュージアムも点在。世界的作家たちが愛した土地の空気が、いつもの仕事をひと味違うものに仕上げてくれる。



## 屋島・牟礼・庵治



### 海沿いの町で 住むように過ごす

高松市東部の3地域へは、車で20～30分。電車やバスでも移動しやすい。源平合戦「扇の的」の古戦場、庵治石の採石場と工房、小さな漁港が混在するので、さまざまな表情をのぞき見ながら、住むように滞在したい。仕事の合間に海の幸を頬張り、天然温泉に身を浸し、港で釣り人に加われば、生活を楽しむ事で仕事も豊かにする極意が身に付くだろう。



四国の古民家を集めた野外博物館がある屋島。博物館のそばには、釜揚げうどんが名物のうどん店も。



牟礼の道の駅の食堂には、「はまちのづけ丼」「たこ飯」など漁師飯が並ぶ。



日課のように海に来る地元の釣り人たちに混じって、さおを投げよう。



庵治半島の宿からは、どこかノスタルジックな瀬戸内の海が見える。温泉に漬かって心静かに。

## 小豆島



### 島の食と 瀬戸内海を「体験」する

小豆島といえば島グルメ。おいしいワーケーションにしたいならこの島だ。

ランチには「ひしお丼」を。木製の桶おけを今も現役で使用するしょうゆ蔵おしおが並ぶ「醬じょうゆの郷」にちなんだ名物だ。しょうゆの原型といわれる発酵調味料「醬」で味付けする以外は調理人任せ。さまざまな味を食べ比べてみよう。

しょうゆ蔵、そうめん工場を見学して、食を「体験」に変えられるのも小豆島の面白さ。さらにシーカヤックで海にこぎ出せば、瀬戸内海の潮流をも体で感じられる。

五感が喜べば、仕事への意欲は自然に上がる。



島で、海沿いの町で  
パソコンから  
顔を上げれば、波音

2019年、米国のニューヨーク・タイムズが発表した「世界で行くべき旅先」の7位に選ばれた瀬戸内海の島々。その海を前に、島や海辺の町で仕事をしながら滞在するとは、なんとぜいたくなことだろう。



砂浜でのランニングやヨガで心と体を整えて、さあ仕事。



## 女木島



### 海辺で 仕事する幸せ

女木島へは、高松港から20分の船旅。高松の街を望む長いビーチでは、朝ヨガや朝ランだけでなく、ゆったり座れる椅子とポータブル電源を占有し「海辺で仕事」がかなえられる。これらの設備は、島の飲食店や宿泊業者で組織する「女木島ワーケーションプロジェクト実行委員会」が貸し出してくれる。

「以前から、仕事をしながら女木島に滞在していた東京の方々の『砂浜で仕事ができれば、後は何も無いのがいい』という意見を参考に、設備は必要最小限です」と、女木島ワーケーションプロジェクト実行委員会会長・松内日出男さん。

食事も宿もオール女木島で、ワークショッブも実施。おもてなしの心がいっぱいの歓迎ムードの中なら、仕事も遊びも充実するに違いない。



ポータブル電源とポータブルチェアを、ビーチ沿いの飲食店などでレンタルできる。



全長300メートルのビーチ全域でWi-Fiがつながる。



シーカヤックで瀬戸内海にこぎ出せば、海を独り占めた気分。



食べべたい「ひしお丼」。



道の駅小豆島オリーブ公園に隣接する宿泊施設は、地中海風ロッジをイメージしており、窓からはオリーブの木々の向こうに海が見える。

食べべたい「ひしお丼」。



# オリーブの酵母から 新しい日本酒が誕生。

2020年春、香川県で発見された「さぬきオリーブ酵母」を使った日本酒が発売された。研究から発売までに足かけ5年を費やして、「地元の酵母で酒を造りたい」という蔵元の願いが実に実現した。

## 米と水と、 あとひとつ。

日本酒醸造に欠かせないもの。それは米と水と酵母である。このうち酵母については、日本醸造協会が提供するものを使うことが多い。特性が研究されており、扱いやすいからだ。一方で、地元で開発された酵母があれば、個性の際立つ日本酒が造れるようになる。香川の蔵元も、地元の酵母が

欲しいと願ってきた。その思いを受けて、産業技術センターが清酒用の酵母の研究を始めたのが2016年。香川を象徴する酵母にしたいと、県花・県木であるオリーブに狙いを定め、2年以上かけて発見したのが「さぬきオリーブ酵母」である。香川県酒造組合の川人裕一郎会長は「米、水、酵母、作り手。全てが香川に根差している日本酒が造れるようになった」と顔をほころばせる。長年思い描いていた夢がようやく実現した。

同酵母を使った日本酒の特長は、果実のような香りとトロピカルな酸味。アルコール度数は15度前後と低めで、和食のみならずイタリアンやフレンチなどとも相性が良い。つまり現代の食生活にぴったりの軽やかな酒である。初出荷となった昨年春には、県内の4つの蔵元がそれぞれ個性的な日本酒を発表した。販売開始後、早々に売り切れてしまうなど、消費者からも好評価を得ている。



香川県酒造組合  
会長 川人 裕一郎さん

## 新たな日本酒の 可能性に期待。

醸造の現場に目を向けると、発見されて間もない酵母のため、特性をつかみ切れていない部分があるという。「ちよつとした温度変化にも敏感な、やんちゃな酵母」というのが川人会長の所感だ。しかし、そう語る声はどこか弾んでいる。難しいから面白い。醸造家として腕が鳴る、というところだろう。「この酵母は日本酒の新たな可能性を感じさせる。まだまだいろいろな種類の酒が生まれてくる」と今後への思いは力強い。オリーブハマチやオリーブ牛など、香川には上質な食材が多い。さぬきオリーブ酵母の日本酒と一緒に、丸ごと香川の食事を楽しんでほしい。



### 酵母を発見

香川県産業技術センター発酵食品研究所  
主席研究員 大西 茂彦

まず、オリーブから取れた100種類ほどの酵母の中から有望なものを選抜しました。しかしこの段階で醸造した酒は、アルコール度数が15度以上に上がりませんでした。アルコールを作る能力の弱い酵母を使うと、醸造初期に雑菌に負けて、おいしくない日本酒になる可能性があります。そのため、もっと高いアルコールを作る酵母が求められました。原因を探ると、自分で作り出したアルコールによって酵母自身が弱っていることが分かりました。そこでアルコールに強い酵母を段階的に選抜していき、ようやくアルコール度数18度以上を期待できる酵母を絞り込むことができました。最終的に残ったのは、わずか2種類です。醸造しやすいエリートな酵母ではないかもしれませんが、今までにない味わいが生まれています。新たなブランドとして成長するまで、ぜひ長い目で見守っていただきたいと思います。

**知事** 20世紀を代表する家具作家のジョージ・ナカシマとの製作をはじめ、永見さんが代表を務める桜製作所は、手仕事による優れた家具の製作を手掛け、木を素材として世界に通用するインテリアデザインを確立したことで有名です。長年にわたって、香川県の文化芸術の振興にも寄与いただいたことから、2020年に香川県文化芸術選奨を贈呈させていただきました。

**永見** 大変名誉な賞を頂戴しました。桜製作所は高松工芸高校で同級生であった高松顕と、私の父・永見眞一が、デザインの仕事で会社を作ろうと1948（昭和23）年に創業しました。70余年の歳月の中で、世界的な彫刻家である流政之が立ち上げた讃岐民具連の運動に取り組み、流の紹介で出会ったジョージ・ナカシマの家具を手掛けるようになり、記念館をオープンしたという経緯があります。当初は家具の量産メーカーを目指したようですが、ナカシマらのものづくりの哲学に心打たれ、独自の路線で



対談場所 栗林公園商工奨励館

していただいた木製家具があり、その一つの1階受付のクロークは、2019年の東館耐震工事の完了に合わせて修繕していただきました。猪熊弦郎の「和敬清寂」の陶板壁画もある1階ロビーは、家具も含め文化的価値の非常に高い空間として残すことができました。

**永見** 香川県庁舎は日本を代表し世界の建築史に名を残す丹下健三作品の代表であり、ここに猪熊画伯をはじめそうそうたる人物が手掛けた仕事の痕跡や作品が残されています。それは大変に歴史的価値があるものです。桜製作所がお手伝いをさせていただいた木製クロークは、少し動かしただけでバラバラに壊れてしまうような状態でした。頭を抱えていたのですが、当時使ったベニヤの薄い板の残りが、当社の倉庫に保管されていた。そこで、最初の状態と遜色のない修繕ができ、胸をなで下ろしました。

**知事** それは大変に興味深い、またありがたいお



手作り家具の道を歩むことになりました。そうした経歴に対するご褒美の賞であると感謝しております。

**知事** 桜製作所は、世界的な彫刻家の流政之や、彫刻界の巨星ともいえるイサム・ノグチといったそうそうたる皆さんとお仕事をしてこられたわけですが、そうした皆さんのサインが大きな梁に残されていると伺いました。

知事対談 浜田 恵造 × 永見 宏介

## 地球の恵みを使い 新たな価値を生む

話です。そうした素材を大切に作る桜製作所は、米国以外では、ジョージ・ナカシマの世界で唯一のパートナー工房です。本日は、栗林公園の商工奨励館本館2階にお越しいただいています。こちらでもジョージ・ナカシマの家具を展示しています。実に見事です。

**永見** ナカシマは素材になる木をとっても大切に扱います。大きな木からたぐさんの小さなパーツを切り出すのは効率的ですが、そうではなく大きく育つのかかった時間と同じだけ使える価値を

ものづくりを  
大切に作る香川で  
あり続けたい

株式会社桜製作所  
代表取締役社長

## 永見 宏介

1959年、香川県生まれ。香川大学卒業後、流政之のスタジオ勤務を経て、1987年に桜製作所へ入社。1996年、代表取締役社長に就任。桜製作所は、木を素材に、一つずつ丁寧に製作するスタイルが特長で、ジャパンハウス・ロンドン(英国)のレストラン家具をはじめ、国内外で多くの仕事を手掛ける。1964年から続く、ジョージ・ナカシマのライセンス家具製作も有名。2008年に設立した「ジョージ ナカシマ記念館」には、貴重なナカシマ家具作品が一度に鑑賞できる場所として、世界中から人が訪れる。



当時、工場の梁に書かれたサイン

ジョージ ナカシマ記念館  
香川県高松市牟礼町大町1132-1 TEL087-870-1020  
URL: [https://www.sakurashop.co.jp/memorial\\_hall/](https://www.sakurashop.co.jp/memorial_hall/)

**永見** イサム・ノグチに先代社長らが、工場の梁にサインをとお願いしましたら、中央の一番上の端に小さく書いていただきました。そのサインを真ん中に、訪れた方がどんなサインを残してください、やがて書き込むスペースがなくなりました。それを外して今は「ジョージ ナカシマ記念館」に展示しています。

**知事** それは貴重な梁ですね。貴重といえば、1958年に竣工した丹下健三設計の香川県庁舎東館は、戦後日本を代表する建築として高い評価をいただいています。そこには丹下研究室がデザインし、桜製作所に製作

創造する理念で、ものづくりをしました。それは1930年代にインドで独立運動をしていたシュリアウロピンドの哲学や考え方を学んだからで、地球の恵みを使わせてもらい家具という形で新たな役割を生むという考えを貫いたのです。創業者の高松顕と永見眞一はそのことに共鳴し、この奥深い哲学とものづくりの面白さを後世に残そうとしました。

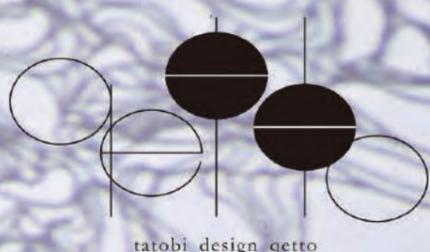
**知事** ジョージ・ナカシマは日本の職人たちの精緻な技を高く評価していたそうですね。

**永見** 来日して日本の職人たちと共同して創り上げた作品には「ミングレン」というタイトルが使われました。昨年はナカシマの没後30年に当たりましたが、コロナ禍で記念のイベントなどは何もできませんでした。せめてナカシマの理念を多くの人々に広められないかと会の発足を考えてお声掛けしたところ、建築家の隈研吾氏をはじめ名だたる人物が賛同してくださいました。駐大阪・神戸米国総領事館総領事のリチャード・メイジュニア氏もそのお一人です。「美・ミングレンの会」と名付け、そうした人々のお力を借りてさまざまに発信し、若い人たちにもナカシマの理念を広げていきたいと考えています。

**知事** 香川県は、ものづくりの魅力を深める工芸王国であり続けたいと考えております。永見さんには今後ますますご活躍いただき、香川県の工芸界にご尽力をお願いいたします。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

香川県知事  
浜田 恵造

※今回の対談は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、パネルの設置と十分な距離を確保した上で、マスクを外して行いました。



tarobi design qetto



画像提供：株式会社人生は上々だ

多島美を誇る瀬戸内海は美の要素が折り重なることで、さらに輝きを増す。その美を手本に香川県発の

「akusari」ブランド「qetto (クエット)」。

こびない匠の技たちが、自信を持って自立する女性たちの背中を押すように、あるいは癒やすように、輝く存在へと導いていく。

# 瀬戸内海の多島美のように 匠の技が美を奏でる 村上モリロー



「gekko」と名付けられた丸いイヤリングは、帰郷した村上氏が心打たれた澄み渡る海辺の夜空に浮かぶ月をモチーフに、世界的銘石「庵治石」と錫を取り入れた「象谷塗」の技をコラボさせたもの。億年変わらぬ石の世界が漆をまとい、月光がただ一つの風景を描き出す。



「hotobori」は、乾漆塗りの技法を使い手袋のためのニット生地が板の上のアート作品になった。情熱の肌の上で弾めば溶け出しそう。



「suzukaze」は、丸亀うちわの骨を作る割きの技を生かし、細かく割かれた竹が涼やかなメロディーを奏でる。

「qetto (クエット)」とは、イタリア語の四重奏を意味する「カルテット」にちなんだ造語。伝統工芸や地場産業を瀬戸内海の多島美のように重ね合わせることで、斬新で美しいリズムを奏でてほしいと2019年2月に香川県の「TATOBIPROJECT (多島美プロジェクト)」として発表された。

このプロジェクトをデザインし「qetto」を生み出したのは、クリエイティブディレクターであり、アートディレクターの村上モリロー氏である。庵治石の産地として名をはせる高松市東部の牟礼で生まれた村上氏は、瀬戸内海の波音を聞きながら育ち、子どもの頃からアートの世界に興味を持っていた。しかし、周囲の大人たちからは絵で暮らしては成り立たないと諭されるばかり。悩む村上氏に母が、AIDS撲滅のポスターで知られるアメリカの画家キース・ヘリングを例に、人に役立つ絵描きになれば良いと言ってくれた。それがその後を

決定づけ、グラフィックデザインの道を進むことに。2009年に独立後、13年に「デザインで瀬戸内をオモシロくする!」をスローガンにクリエイター集団「瀬戸内工芸ズ」を発足。瀬戸内国際芸術祭2016・2019にはアーティストとして参加した。

伝統工芸の素晴らしさに目覚めたのは、LEXUS NEW TAKUMI PROJECT※2016に参加したのがきっかけである。全国各地を代表する約50人の匠が参加するこのプロジェクトで、伝統工芸を担う匠たちの志や技の素晴らしさに触れ、時を経て磨かれ続けて来たものだからこそ、時代や大衆に迎合することなくその価値を高める販売方法を模索したいと決意する。その思いで手掛けた一つが「qetto」であった。

「目指したのは、価値を落とさずに伝統工芸の技術を最大限生かしたプロダクトです。素晴らしき技術を買いやすい値段にすることは、価値を落



株式会社人生は上々だ 代表  
**村上モリローさん**

クリエイティブディレクター／アートディレクター  
クリエイター集団「瀬戸内工芸ズ。」部長(代表)。  
香川短期大学 非常勤講師。  
1978年高松市生まれ。  
2013年株式会社スクルトを設立。クリエイター集団「瀬戸内工芸ズ。」を発足。  
2016年・2019年、盆栽師平尾成志氏と共にアーティストとして瀬戸内国際芸術祭に参加し、盆栽のインスタレーション作品を発表。  
LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 2016において、5人の「注目の匠」の一人に選出される。  
2020年9月、「株式会社人生は上々だ」に社名変更。



順調に推移していた中での思い切った社名変更やピンクの封筒などは、改革のための勇気を自らクライアントたちに示すため。

順調に推移していた中での思い切った社名変更やピンクの封筒などは、改革のための勇気を自らクライアントたちに示すため。

宏氏、ファッション手袋の技をリードするヨークス株式会社、丸亀うちわの伝統工芸士である「うちわ工房三谷」の三谷順子氏、それぞれの匠たちは驚くほどの意欲と技で応えてくれた。そうして、香川県ならではの美の小宇宙が出現したのだ。

今後は、アクセサリ以外のファッションやアートピース、例えばバッグなどにも「qetto」の世界を広げたいと企てている村上氏である。

庵治石のショールームをリフォームした複合オフィス。



【問い合わせ先】  
株式会社 人生は上々だ  
香川県高松市牟礼町牟礼261-2  
TEL 087-845-0007

※トヨタ自動車が発展するブランド「レクサス」が主催となり、日本の各地で活動する自由な発想で新しいものづくりに取り組む若き「匠」を支援するプロジェクト。

# 香川愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIME SETOUCHI SHUN SAI KAN

東京・新橋アンテナショップ

特産品ショップ、郷土料理、観光情報コーナーで香川の旬をぜひどうぞ。

「香川・春の息吹フェア」を開催中です。注目はこれ!

## 1F 特産品ショップ「イベントコーナー」

季節ごとに開催している「産地直送!野菜・果物フェア」では、香川の旬の野菜・果物を産地直送で販売しています。今年の春は、レタスやブロッコリー、ニンニクなど香川で多く栽培されている野菜をはじめ、さぬきひめ(イチゴ)、さぬきのめざめ(アスパラガス)といった県産オリジナル品種の農産物をお届けします。「まんぼ」のような地元ならではの野菜も登場する予定となっていますので、この機会に、香川の新鮮な野菜・果物を、ぜひ、ご家庭で味わってみてください。  
※最新のフェア開催情報については、旬彩館ホームページのイベント情報でご確認ください。



## 2F 郷土・せとうち料理「かおりひめ」

3月から5月までの「香川・春の息吹フェア」開催期間中、「オリブ酵母酒」(全4種)が新登場。ご注文いただいた方を対象に、お酒に合う酒器などが当たる特別企画も開催します。香川の伝統工芸や地場産品から生まれた酒器は、さぬきオリブ酵母の日本酒のおいしさを引き立てます。  
春の旬の食材を肴に、ぜひお試しください。



〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10新橋マリンビル1・2階  
http://www.setouchi-shunsaikan.com  
観光情報コーナー TEL03-3574-2028

## 心がけよう! 「新しい生活様式」

- 発熱などの症状があるときは 県HPページID 18469  
まずは「かかりつけ医などの身近な医療機関」に電話で相談してください。  
※どこに相談すればよいか分からないときは下記まで「香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター」TEL0570-087-550(専用ナビダイヤル)
- 香川県内の新型コロナウイルスの感染状況をご確認ください。 県HPページID 20977  
※県公式ツイッターやフェイスブックでも情報を発信しています。  
※外出や旅行の前に、目的地の感染状況やお住まいの地域で出されているメッセージを確認してください。
- アプリを使って、感染拡大を防止!  
◆ 新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」  
※詳しくは、厚生労働省のウェブサイトをご覧ください。  
◆ LINEアプリ「かがわコロナお知らせシステム」  
※県内の飲食店やイベント会場などにある二次元バーコードを読み取ると、同じ日の利用者に感染者がいた場合に お知らせが受け取れます。 県HPページID 15992

新・さぬき野 春 No.72 令和3年3月15日発行  
企画・発行: 香川県広報課  
編集・制作: (株)中国四国博覧堂  
新しい働き方として「ワーケーション」が目まぐるしく注目を浴びています。普段と違う環境での仕事。余暇に楽しむ地方の文化。新しい発想は、充実した滞在から生まれるようです。皆さんの仕事のパートナーに、瀬戸内・香川はいかがですか。 編集長

## 幻想的な夜桜に心も踊る 栗林公園春のライトアップ



約320本の桜が彩る、特別名勝「栗林公園」の春。見頃を迎える3月下旬から4月上旬には、10日間限定で開催される「春のライトアップ」でこの時期だけの特別な景観が楽しめます。  
水面に映し出される桜や、心躍る夜桜のトンネルなど、園内各所で演出される夢のような空間。光と影のコントラスト、松と桜が織りなす風景はまさに幻想的で、訪れる人々を魅了します。  
さらに、期間限定で夜間に運航される和船では、ライトアップされた桜や島々が水面に映り込む景観をゆったりと味わえます。  
期間中の土・日曜日は、臨時無料駐車場をご用意しています。昼間とは違った春の栗林公園を、心行くまでお楽しみください。

【問い合わせ】栗林公園観光事務所 TEL087-833-7411  
栗林公園 検索 https://www.my-kagawa.jp/ritsuringarden  
※開催期間については、栗林公園観光事務所にご確認ください。

## JR高松駅前テレワークやワーケーションにも最適「Setouchi-i-Base」

オープンインベーション拠点として整備された「Setouchi-i-Base(セトウチ・アイ・ベース)」は、JR高松駅のすぐ近くにあり、約110席のコワーキングスペースのほか、3Dプリンターやレーザーカッターなどを共同利用できる創作工房やTV会議室、次世代通信技術である5G通信環境も完備。施設を拠点に情報通信関連分野や事業創造に関する人材の育成や利用者のインベーション創出に向けた相談対応、ビジネスマッチング、就業支援など“シゴト”づくりにつながる支援を行っています。



香川への出張や旅行の際は「Setouchi-i-Base」でテレワークやワーケーションなど、滞在時間を有効活用してみたいかがでしょうか。皆さまのご利用をお待ちしています。

【料金】

個人会員	一般 8,000円/月
	ナイト・ホリデー 4,000円/月 平日午後6時以降、土日祝は全日利用可
	学生 2,000円/月
法人会員	20,000円/月 ※最大3人まで同時利用可能
ドロップイン(一時利用)	300円/h 最大1,200円/日

【場所】香川県高松市サンポート2番1号高松シンボルタワータワー棟4・5階  
情報通信交流館(e-とびあ・かがわ)内  
(JR「高松駅」から北側すぐ)

【問い合わせ】Setouchi-i-Base TEL087-822-0111  
https://setouchiibase.jp/



## 香川発のこだわり野菜 さぬき讚ベジタブル 県HPページID 12416

2020年11月に発表された香川県産野菜の愛称「さぬき讚ベジタブル」。瀬戸内の穏やかな気候に育まれた香川県産野菜の中で、生産者※が旬や品質などにこだわった野菜を「さぬき讚ベジタブル」として、全国の皆さんにお届けします。

「さぬき讚ベジタブル」は、味や品質はもちろん、お店に並んでいると、思わず手に取ってしまうような香川ならではのラインアップも魅力の一つです。現在、認定されているのは5件の生産者。その品目は、葉が厚く、甘みの強い「レタス」。朝採り、氷詰め出荷で鮮度抜群の「ブロッコリー」。香川県の郷土料理に欠かせない「まんぼ」や香川県オリジナル野菜の「食べて菜」。そして、香川県オリジナル品種で穂先が締まり根元まで柔らかい「さぬきのめざめ」を含むアスパラガス。今後も、県内で栽培される野菜が「さぬき讚ベジタブル」の対象品目として、どんどん追加される予定です。

温暖少雨の環境で育つ多彩な野菜はまさに香川の恵みといえます。ぜひ、一度、ご賞味ください。

※香川県産野菜イメージアップ計画を作成し、かがわ農産物流通消費推進協議会の認定を受けた者

【問い合わせ】香川県農業生産流通課 TEL087-832-3417



春の目覚めを告げるアスパラガス「さぬきのめざめ」

Instagram  
県内外での香川県産農産物イベント情報、生産者情報、生育状況、レシピなどをリアルタイムに発信中。  
@kagawa\_nousanbutsu



YouTube「香川の野菜」  
香川県産野菜の生産現場や生産者の思いなどの動画を公開中。



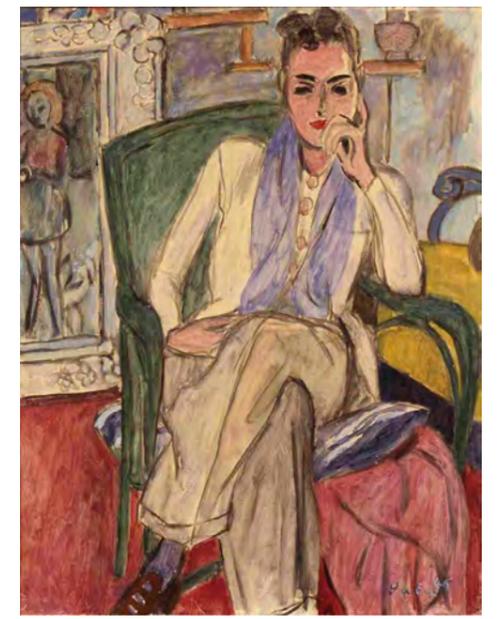
## 香川県立ミュージアム 特別展「空間に生きる画家 猪熊弦一郎」 県HPページID 7699

戦前から戦後にかけての激動の時代に、絵画の枠を超えて芸術に向き合った猪熊弦一郎を新たな視点で捉える特別展「空間に生きる画家 猪熊弦一郎 ―民主主義の生活空間と造形の試み―」を県立ミュージアムで開催します。

香川県出身で、パリやニューヨークなどでも活躍した猪熊は、絵画のほか、建築やデザイン分野に強い関心を持ち、包装紙や風呂敷、着物といった平面と立体を横断するような作品を多く手掛けました。また、文化人としての側面を持ち、女性の服装や社会的地位の変化に注目した雑誌の挿絵などでも活躍しました。

民主主義社会を目指す戦後において、生活の中に芸術があることを重要視し、総合芸術としての建築にも取り組んだ猪熊が何を考え、芸術にどう向き合ったのか。

展覧会では、1950年代の多様な形態の作品を中心に、関係資料含む約150点の作品を展示します。猪熊が感じた時代の空気に、触れてみてください。



猪熊弦一郎《青いマフラー》1946年 香川県立ミュージアム蔵 (c)The MIMOCA Foundation



猪熊弦一郎《浴衣》制作年不明 個人蔵 (c)The MIMOCA Foundation

【日時】4月17日(土)～6月6日(日)午前9時～午後5時  
※夜間開館日は午後7時30分まで  
会期中の土曜日、5月2日(日)～5月4日(火・祝)は夜間開館  
【休館】毎週月曜日 ※5月3日(月・祝)は開館  
【会場】香川県立ミュージアム  
(高松市玉藻町5-5、高松駅から徒歩約12分)  
【料金】1,100円 ※前売・団体(20人以上)は900円  
【問い合わせ】香川県立ミュージアム  
TEL087-822-0247

県HPページID 香川県ホームページのトップページ上部にある「ページID検索」に番号を入力するだけで該当ページをご覧いただけます。

(注)掲載のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、中止または内容に変更が生じることがあります。

